

問1 富山県の自然環境と産業の結びつきについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 山形公立入試 類似）

- 急峻な地形を流れる河川を利用した水力発電が発達し、豊富な水資源を背景に、耕地面積のほとんどを水田とする稲作が展開されている。
- 広大な越後平野を利用して日本最大の米の生産量を誇るが、冬の積雪による湿田が多いため、野菜の産出額も非常に多い。
- 内陸部の盆地特有の気候を活かした果樹栽培が盛んであり、水力発電よりも高原野菜の出荷額に特色がある。
- 温暖な気候を活かした茶の栽培や施設園芸農業が発達しており、人口密度の高さを背景に小売業の年間販売額も大きい。

問2 長野県を中心に位置し、3000メートル級の険しい山々が連なることから「日本の屋根」とも称される、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈を合わせた総称を選びなさい。（2024年 長野県公立入試 類似）

- 日本アルプス
- 越後山脈
- 奥羽山脈
- 中国山脈

問3 静岡県周辺の太平洋沿岸部において、冬でも気温が5度を下回らない日が多く、比較的温暖である理由として最も適切な説明はどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

- 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けるとともに、北からの冷たい季節風が山脈によって遮られるため
- 暖流である対馬海流の影響を強く受け、冬でも湿った空気が流れ込みやすいため
- 一年中吹いている偏西風が、大陸の暖かい空気を絶えず運んでくるため
- 標高が低く日照時間が短いため、放射冷却が起こりにくいから

問4 中部地方の9県（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）における、産業分類と2017年の就業者数の特徴について述べた文として適切なものはどれですか。（2022年 神奈川県公立入試 類似）

- 林業は第1次産業に分類され、2017年の中部地方9県における第3次産業就業者数は合計で600万人を超えており、すべての県で第3次産業の割合が最も高い。
- 林業は建設業とともに第2次産業に分類され、愛知県では製造業の発展により第2次産業の就業者数が第3次産業の就業者数を上回っている。
- 林業は第1次産業に分類されるが、中部地方の中で第2次産業に従事する就業者数が最も多いのは富山県であり、伝統工芸が地域の雇用を支えている。
- 林業はサービス業と同じ第3次産業に分類され、山梨県や長野県などの高原野菜の産地では、第1次産業の就業者数が第3次産業の就業者数を上回っている。

問5 東京駅を出発し、群馬県の高崎駅や長野県の軽井沢駅などを経由して、石川県の金沢駅までを結ぶ北陸新幹線が通過する県として適切なものはどれですか。（2022年 島根公立入試 類似）

- 新潟県
- 福島県
- 山梨県
- 岐阜県

問6 日本の諸地域の産業と貿易港の関係について述べた文章のうち、名古屋港の特徴を正しく説明しているものを選んでください。（2026年 北海道公立入試 類似）

- 周辺に自動車産業が集積しているため、輸出総額が日本一であり、輸出内訳でも自動車やその部品などの関連製品が大きな割合を占めている。
- 首都圏に位置する貿易の拠点で、輸出額では自動車が上位に入るが、輸入額が輸出額を上回っており、電子機器の輸入も多い。
- 航空貨物の取扱額が日本一の拠点で、IC（集積回路）や医薬品などの、軽量で高価な製品の輸出に特化している。
- 鉄鋼業や化学工業などの基礎素材産業の拠点として発展したため、鉄鋼製品の輸出が過半数を占め、原料の輸入も盛んである。

問7 長野県などで盛んな、夏の涼しさを利用したレタス栽培の仕組みについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）

- 標高が高い地域の気候を利用し、平地の出荷が少なくなる夏季に合わせて生産・出荷している。
- ビニールハウスや温室を利用し、平地よりも早い時期に収穫して出荷している。
- 大消費地に近い立地を活かし、鮮度を保ったまま短時間で市場へ輸送している。
- 冬でも温暖な気候を活かし、他の地域が生産できない冬から春にかけて出荷している。

問8 富山県砺波市などの散村地域において、1960年代には曲線状で細かく入り組んでいた道路が、1990年代後半には直線状の道路へと再整備されました。このような土地基盤の整備を中心となって進めた事業の名称として、最も適切なものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）

- 農業構造改善事業
- 高度経済成長事業
- 地方創生整備事業
- 国土利用計画事業

答え合わせ・解説

問1	答え 1 急峻な地形を流れる河川を利用した水力発電が発達し、豊富な水資源を背景に、耕地面積のほとんどを水田とする稲作が展開されている。	富山県は「常願寺川」に代表されるような世界的に見ても急勾配な河川を有しており、この地形的条件が大規模な水力発電を可能にしています。また、扇状地が発達しており、古くから灌漑（かんがい）が整備されてきたため、農業においては水田単作地帯としての特色が強く、他の県に比べて野菜などの産出額よりも稲作の比重が極めて高いのが特徴です。
問2	答え 1 日本アルプス	中部地方の長野県・岐阜県・富山県・山梨県などにまたがる飛騨・木曾・赤石の3つの山脈は、その険しさからヨーロッパのアルプス山脈になぞらえて「日本アルプス」と呼ばれます。越後山脈は新潟県と福島県などの境に、奥羽山脈は東北地方の中央に位置する山脈です。
問3	答え 1 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けるとともに、北からの冷たい季節風が山脈によって遮られるため	太平洋側の気候が冬に温暖なのは、沿岸を流れる暖流の黒潮が空気の温度を下げにくくしていることや、冷たい北西の季節風が険しい山脈（日本アルプスなど）に遮られ、乾燥した暖かい風として吹き降ろしてくることが主な要因です。対照的に、日本海側では暖流の対馬海流の影響で雪が降りやすくなります。
問4	答え 1 林業は第1次産業に分類され、2017年の中部地方9県における第3次産業就業者数は合計で600万人を超えており、すべての県で第3次産業の割合が最も高い。	産業の分類において、自然界から資源を直接採取する林業は、農業や漁業と同じ第1次産業に該当します。中部地方は製造業が盛んな地域として知られていますが、就業構造のサービス化が進んだ現代においては、卸売・小売業やサービス業などを含む第3次産業の割合が最も高くなっています。2017年の統計では、愛知県の総就業者数が約407万人と突出しており、中部地方全体での第3次産業就業者数は600万人を超える規模に達しています。
問5	答え 1 新潟県	北陸新幹線は、東京から群馬県、長野県を経由した後、新潟県（上越妙高駅など）、富山県を通じて石川県の金沢駅（2022年当時）へと至る路線です。福島県は東北新幹線の沿線であり、山梨県は中央本線の沿線であるため、北陸新幹線のルートには含まれません。
問6	答え 1 周辺に自動車産業が集積しているため、輸出総額が日本一であり、輸出内訳でも自動車やその部品などの関連製品が大きな割合を占めている。	名古屋港の最大の特徴は、背後に控える中京工業地帯、特に愛知県内の自動車産業との密接な結びつきです。完成した自動車だけでなく、その部品やエンジン（内燃機関）といった関連製品を合わせると、輸出全体の約4割に達します。このような特定の産業に特化した大規模な輸出構造が、日本一の貿易額を支える要因となっています。
問7	答え 1 標高が高い地域の気候を利用し、平地の出荷が少なくなる夏季に合わせて生産・出荷している。	中部地方の山間部で行われるこの農業は、夏の冷涼な気候を「天然の冷蔵庫」のように利用している点が特徴です。高知県や宮崎県で見られる、温暖な気候や施設を利用して出荷時期を早める「促成栽培」とは、気候条件の利用の仕方が正反対になります。このように時期をずらして生産することを「抑制栽培」と呼ぶこともあります。
問8	答え 1 農業構造改善事業	日本の農業における生産構造の遅れを解消し、農家の所得向上や生活環境の整備を目指して実施されたのが農業構造改善事業です。砺波平野の散村ではこの事業を通じて、散在する住宅の利便性を保ちつつ、近代的な農業経営が可能ないように道路や用水路、耕地の形状が直線的に整備されました。